

インターリンク、ソフトイーサと共同で、 「IP アドレスの仮想化」に成功。IP 枯渇問題に幕！

2011年4月1日、筑波大学発ベンチャー企業であるソフトイーサ株式会社（茨城県つくば市、代表取締役会長：登大遊、以下ソフトイーサ）と、ブロードバンド接続サービス提供などを展開する、株式会社インターリンク（東京都豊島区、代表取締役：横山正、以下インターリンク）は、「IP アドレスの仮想化」の共同開発に成功したことを発表しました。

現行のIPアドレス「IPv4」の在庫は2011年7月までには枯渇すると予想されていました。しかし、JPNIC（社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター）の2011年3月25日の発表によると、2011年4月～5月中旬に前倒しとなる可能性も考えられるペースであることが判明しました。そのため、新規のIPv4アドレス分配はできなくなることを前提に、IPv6の利用を拡大することが唯一の長期的な対策であるとされていました。

このような状況を背景に、インターリンクはソフトイーサとの共同企画・開発により、IPアドレスの仮想化技術を確立しました。これにより、長い間危惧されていたIPv4の枯渇問題が解決されるため、世界的な大発明といわれています。

サービスの提供開始は、2011年4月2日午前11時。新たなIPアドレス時代の幕開けとなります。

【注意】（記事化の際には、以下のウェブサイトを必ず御覧下さい。）

「IPアドレスの仮想化に成功」の詳細は下記URL から閲覧できます。

http://www.interlink.or.jp/april_1_2011

【参考】

●JPNIC（社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター）

APNIC 地域におけるIPv4アドレスの通常割り振り終了（在庫枯渇）の時期について

<http://www.nic.ad.jp/ja/topics/2011/20110325-01.html>

<会社概要>

◆ソフトイーサ株式会社 (<http://www.softether.co.jp/jp/>)

多数の導入事例を誇る次世代レイヤ、2VPN ソフトウェア「PacketiX VPN 2.0」をはじめとする各種ソフトウェアおよびハードウェアの開発を行う筑波大学発ベンチャー企業。2008年12月からは、電気通信事業法に基づく広域ギガビットイーサネット専用線サービス「HardEther（ハードイーサ）」を提供中です。2010年3月には、経済産業大臣表彰受賞製品「PacketiX VPN 2.0」の後継バージョンである「PacektiX VPN 3.0」を発表しました。

◆株式会社インターリンク (<http://www.interlink.or.jp/>)

日本のインターネット黎明期である1995年よりサービスを開始した、今年で16年目を迎える老舗ISP。2000年よりドメイン名登録事業を開始、2006年10月日本で8社目のICANN公認レジストラに認定。2009年10月にはGMOを含む7社と日本ドメイン名事業者協会を発足しました。快適なインターネット接続環境を提供すると共に、インターネットを通じた社会貢献活動にも積極的に取り組んでおり、2010年度は「シルバー向け無料iPad教室」を開催中です。

●本リリースに関するお問合せ先 ● ※リリースに関するお問い合わせ以外はご対応致しかねます。

TEL: 03-5985-1695

E-mail: info@interlink.pr 担当: 高橋、菅野(スガノ)